

ねんりんピック おいでませ! 山口2015

宮城県勢が健闘

入賞者にインタビュー

**健康
マーじゃん**
個人戦 緑(毛利郎)ブロック 準優勝
三浦勝範さん(66)

厳しい局面辛抱し目標達成

今回は全国から268人が健康マーじゃんに参加。4ブロックに分かれ「緑(毛利郎)ブロック」で準優勝になった。

「序盤はなかなか流れをつかめず、思い通りにならなかった」と振り返る。欲しい牌(パイ)が手元に回って来ず、理想的な上がり方ができなかったが、点数がマイナスにならないよう気を付けてゲームを進めた。

「まるで厳しい冬を耐え抜くように辛抱したのが功を奏したのか、最後のゲームでは高得点を出せた。」

それでも序盤の点が悪かったので良くてベスト8かと思っていたが、準優勝と聞いて驚いた。上位入賞の目標を果たせた」と喜ぶ。

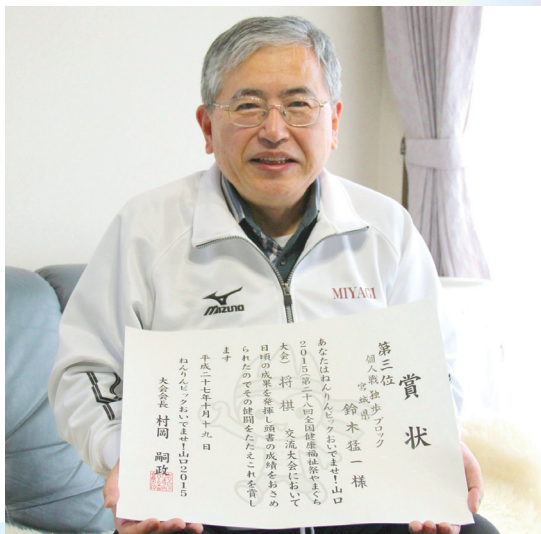
若かったころは、ここぞというときに耐え抜く手立てが分からず、負けてばかりだった。最近はずが回って来ないときは無理せず、その時できることで対策しながら心に余裕を持って挑むようになり、マーじゃんが楽しくなったという。



胸元で銀メダルがきらりと光る

将棋
個人戦 独歩ブロック 3位
鈴木猛一さん(63)

隙を攻め込み逆転勝ち



ユニフォーム姿で賞状を掲げる

将棋の個人戦は10ブロックに分かれ「独歩ブロック」で3位に入賞した。

1局目は初めからペースをつかみ、危なげなく勝利。2局目の勝負は相手が優勢だった。

「このまま負けてしまうのかと思ったが、相手が攻めず守りに入ったので、その隙を攻めて逆転勝ちした」という。

3局目では、相手を追い込んだと思ったところをつまつかわれ、惜しくも負けてしまった。

「1局は40分だが、あつという間に感じる。その中で流れを読みながら試合運びを考えなければならぬ。勘が鈍ると途端に勝てなくなるので、これからも実戦を重ねて80代まで将棋を続けたい」と抱負を語る。

月2回練習会に参加し、月1回は県内の大会に出場している。「シニア世代に限らず若い世代など、いろいろな人と将棋を指すのが楽しい」と笑顔で語る。

**ダンス
スポーツ**
ラテンの部(ルンバ) 8位
武田正秀さん65、美和子さん63夫妻

他選手との交流が刺激に

ダンススポーツは「スタンダードの部」と「ラテンの部」で競技が行われる。武田さん夫妻はラテンの部でルンバを踊り、8位入賞した。

これまでも東北近隣のダンス競技会に積極的に出場。ねんりんピック出場は2012年の宮城・仙台大会以来2回目となる。

「ねんりんピックはお祭りのような雰囲気も楽しい。今回は結果もついてきた」とそつと喜ぶ。

正秀さんは趣味でダンスパーティーに参加していたことがあったものの、夫妻で本格的に競技ダンスを習い始めたのは約10年前。現在は地元でサークルやダンスパーティーなどに参加している他、週2回、自主トレーニングに励む。

「山口という遠い街に2人で出掛けることができただのも、ダンスという共通の趣味があったおかげ。自分たちより年長の出場者を見て『あの年であればだけの踊りができるんだ、すごい』と刺激になった」と美和子さん。

正秀さんは「目標は『生涯現役』。まずは2年後の選考会まで『踊れる体』を評価してもらえ踊りを維持したい」と誓っていた。



「他県の選手と仲良くなれたのもうれしかった」と笑顔を見せる武田さん夫妻

幕末維新ゆかりの地、山口県で開かれたスポーツ・文化交流大会「ねんりんピックおいでませ! 山口2015」では、宮城県の選手が日頃の練習成果を存分に発揮。1面に引き続き、見事入賞を果たした選手にインタビューした。